

【報告事項】

令和6年度胃がん検診（胃内視鏡検査・胃部エックス線検査）及び胃がんリスク検診（胃の健康度検査）の実績等について

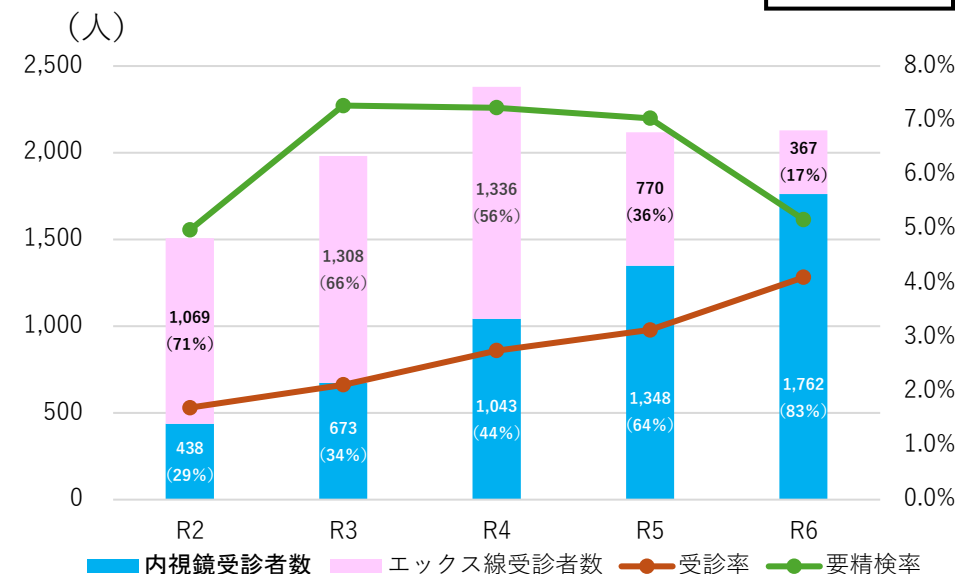
1 胃がん検診（全体）

（1）年次推移（R7.7月末時点）

図表 1

	R2	R3	R4	R5	R6
対象者数	110,035	111,709	108,883	99,001	101,484
受診者数（エックス線＋内視鏡）	1,507	1,981	2,379	2,118	2,129
受診率	1.7%※1	2.1%※1	2.8%※1	3.1%※1	4.1%※2
要精密検査者数	75	144	172	149	110
要精検率	5.0%	7.3%	7.2%	7.0%	5.2%
精密検査受診者数	63	131	169	147	105
精検受診率	84.0%	91.0%	98.3%	98.7%	95.5%
がん発見数	1	8	4	4	3
がん発見率	0.07%	0.40%	0.17%	0.19%	0.14%
陽性反応的中度	1.33%	5.56%	2.33%	2.68%	2.73%

図表 2



胃がん検診（全体）について

- ・令和4年度から令和6年度にかけて胃がん検診全体の受診者数に大きな変化は無いが、胃内視鏡検査を選択する方の割合(83%)が大きくなっている。
- ・令和6年度は、3名から胃がんを発見した。

胃部エックス線検査の受診間隔の変更に伴い、令和5年度までと令和6年度について、それぞれ下記の方法で受診率を算出している。

※1 R2～R5受診率 = (「前年度の内視鏡受診者数」 + 「当該年度の内視鏡・エックス線受診者」 - 「連続受診者」) / (当該年度の対象者数)

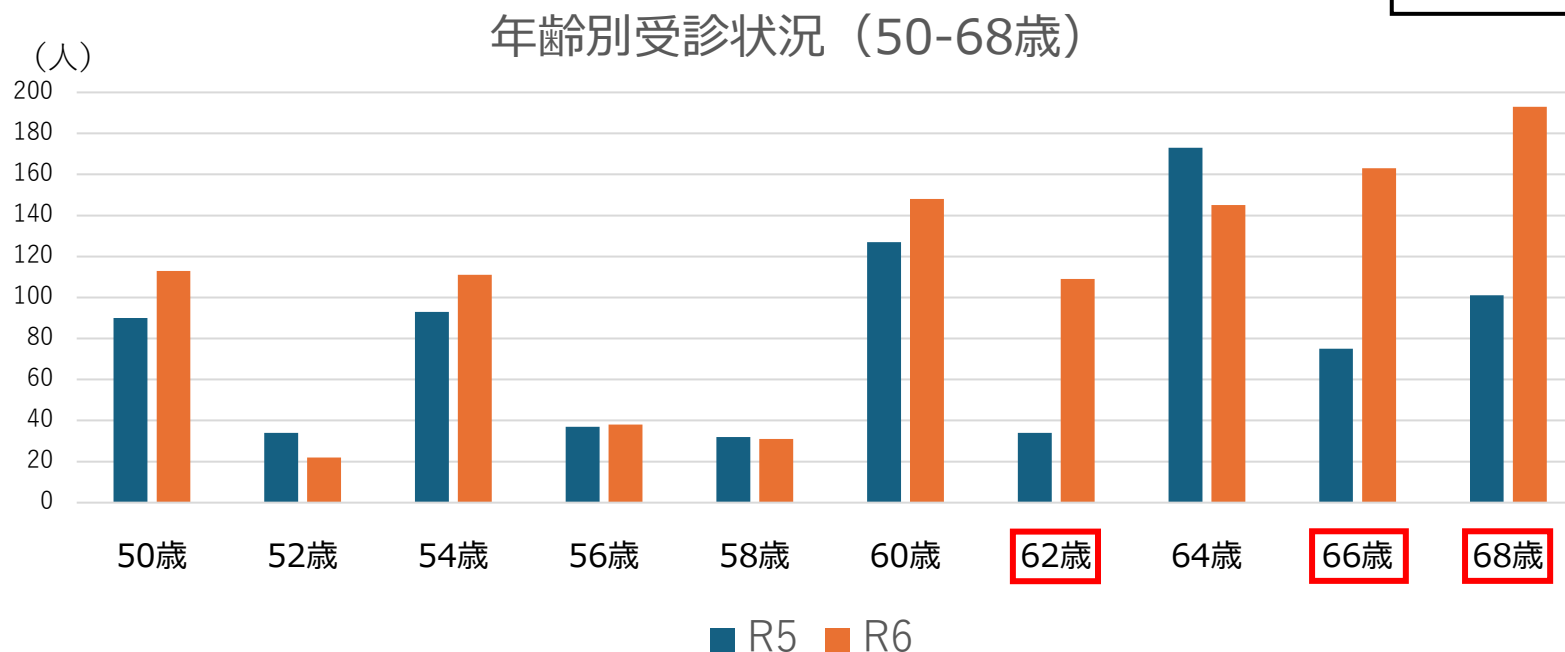
※2 R6受診率 = (「前年度の受診者数」 + 「当該年度の受診者数」 - 「連続受診者数」) / (当該年度の対象者数)

1 胃がん検診（全体）

（2）受診率向上対策

周知方法	広報等	広報おおつ掲載、健康づくり情報誌（各戸配布）、ホームページ掲載、LINE及びメール配信、ポスター掲示（市民センター及びすこやか相談所）
	個別勧奨	●6月に、50歳、54歳、60歳、64歳、68歳に個別勧奨（はがき送付） ●11月に、62歳及び66歳の未受診者に追加勧奨（はがき送付）

図表3



個別勧奨の効果

- ・令和6年度に新たに送付対象とした62歳・66歳・68歳は、前年度に比べて顕著に受診者が増加しており、個別勧奨することで受診行動につながったと考えられる。

2 胃がん検診（胃部エックス線検査）

（1）年次推移（R7.7月末時点）

図表4

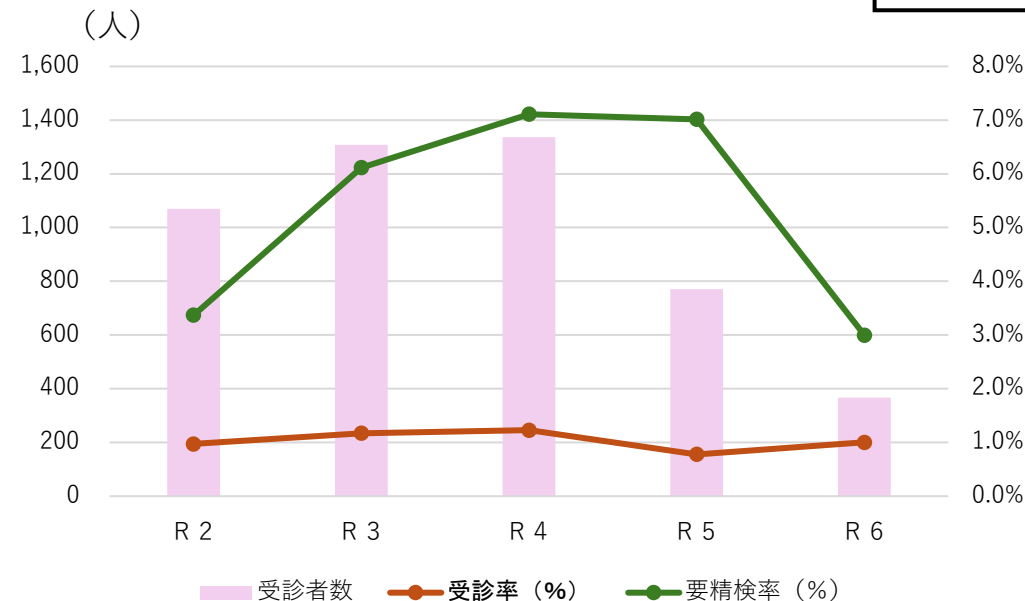
	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
対象者数	110,035	111,709	108,883	99,001	101,484
受診者数	1,069	1,308	1,336	770	367
受診率	1.0%※1	1.2%※1	1.2%※1	0.8%※1	1.0%※2
要精密検査者数	36	80	95	54	11
要精検率	3.4%	6.1%	7.1%	7.0%	3.0%
精検受診者数	33	73	92	51	10
精検受診率	91.7%	91.3%	96.8%	94.4%	90.9%
がん発見者数	0	2	1	0	0
がん発見率	0%	0.15%	0.07%	0%	0%
陽性反応的中度	0%	2.50%	1.05%	0%	0%

胃部エックス線検査の受診間隔の変更に伴い、令和5年度までと令和6年度について、それぞれ下記の方法で受診率を算出している。

※1 R2～R5受診率＝「当該年度エックス線受診者」／（当該年度の対象者数）

※2 R6受診率＝（「前年度の受診者数」＋「当該年度の受診者数」－「連続受診者数」）／（当該年度の対象者数）

図表5



胃部エックス線検査について

- ・令和6年度より、奇数年齢の方が検診の対象外となった（注）ため、受診者数が減少した。
- ・がんの発見は無かった。

注：国の指針（※）改正に合わせ、令和5年度より胃部エックス線検査の受診頻度を2年に1回とし、胃内視鏡と同様に50歳以上の偶数年齢を対象とした。ただし、令和5年度は、経過措置として、奇数年齢も受診可能としていた。

※「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」

2 胃がん検診（胃部エックス線検査）

（2）偶発症の報告状況

	年度 年齢	性別	偶発症 の種類	偶発症の内容	既往歴	転帰	健康推進課 の対応
ケース1	76	男	誤嚥	本人の自覚症状はなかったが、画像上バリウムが気管に入るのを確認した	誤嚥性肺炎で入院歴あり	待機医師の診察後に帰宅する	電話で検診後の体調確認を行う

2 胃がん検診（胃部エックス線検査）

（3）プロセス指標による評価

図表 6

	50～69歳			許容値・目標値 (50～69歳)
	合計	男	女	
対象者数	36,377	14,011	22,366	
受診者数	232	95	137	
要精密検査者数	6	2	4	
要精検率	2.6%	2.1%	2.9%	(許容値) 7.1%以下(国)
精検受診者数	6	2	4	
精検受診率	100.0%	100.0%	100.0%	(目標値) 100% (市)
がん発見者数	0	0	0	
がん発見率	0%	0%	0%	
陽性反応的中度	0%	0%	0%	

プロセス指標との比較について

- ・要精検率は、国が示す許容値を満たしている。
- ・精検受診率は、大津市第2期がん対策推進基本計画における目標値を満たしている。

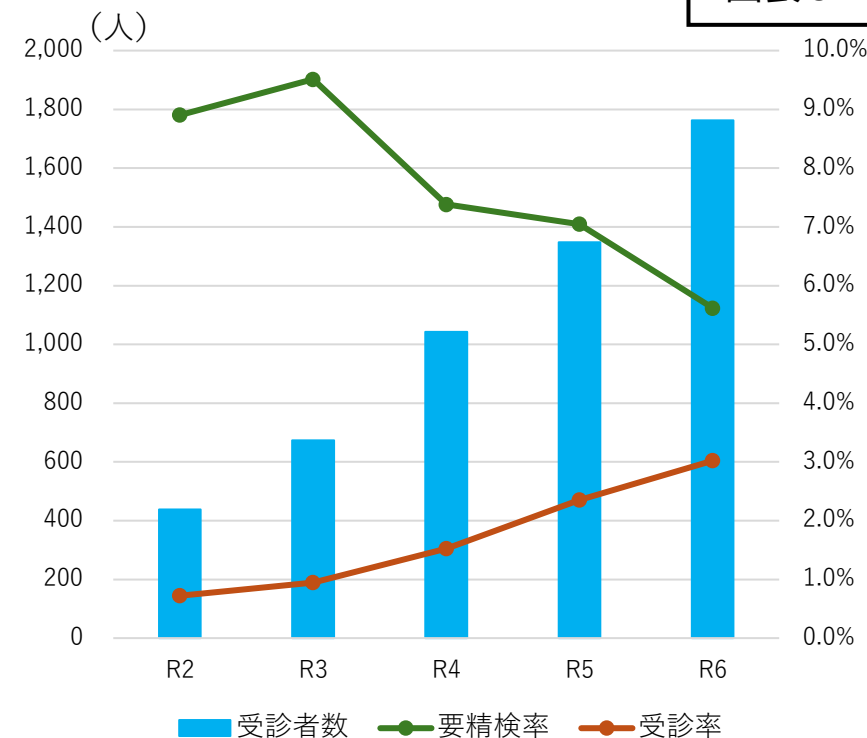
3 胃がん検診（胃内視鏡検査）

（1）年次推移（R7.7月末時点）

図表7

		R2	R3	R4	R5	R6
対象者数		110,035	111,709	108,883	99,001	101,484
受診者数		438	673	1,043	1,348	1,762
受診率		0.7%	0.9%	1.5%	2.4%	3.0%
総合判定	精密検査不要	403	646	909	1188	1649
	ピロリ菌感染症胃炎の疑い	—	—	44	45	59
	要治療・要受診 （胃がん以外）	22	15	16	31	35
	要精密検査	13	12	74	84	19
要精密検査者数	生検	28	58	77	94	93
	ダブルチェック要再検	11	6	0	1	6
	合計（要精密検査者数）	39	64	77	95	99
生検率		6.4%	8.6%	7.4%	7.0%	5.3%
要精検率		8.9%	9.5%	7.4%	7.0%	5.6%
精検受診者数		30	58	77	95	95
精検受診率		76.9%	90.6%	100.0%	100.0%	96.0%
がん発見数		1	6	3	4	3
がん発見率		0.23%	0.89%	0.29%	0.30%	0.17%
陽性反応的中度		2.56%	9.38%	3.90%	4.21%	3.03%

図表8



胃内視鏡検査について

- ・受診者は前年度より1.3倍増加した。
- ・令和6年度は3名の胃がんを発見した。

3 胃がん検診（胃内視鏡検査）

（2）がん発見症例について

	年度 年齢	性別	ピロリ菌感染状況	所見部位		肉眼 分類	総合判定
ケース1	76	男	H.pylori感染（既）	胃角部	小弯	Ⅱc+Ⅲ	早期胃がん（粘膜内がん：壁深達度M）
ケース2	70	男	H.pylori感染（不明）	体上部	大弯	Ⅱa	早期胃がん（粘膜内がん：壁深達度M）
ケース3	66	男	H.pylori感染（既）	体上部	前壁	Ⅱb	早期胃がん（粘膜内がん：壁深達度M）

胃内視鏡検査からのがん発見症例について

- ・3件のケースは、60～70歳代の男性で、いずれも早期で発見されている。

3 胃がん検診（胃内視鏡検査）

（3）偶発症の報告状況

	年度 年齢	性別	抗血栓薬 服用の有無	検査 方式	偶発症 の種類	部位	重症度	転帰
ケース1	64	女	なし	経鼻	鼻出血	鼻腔	軽症（処置なし）	帰宅（検査施設対応）
ケース2	64	女	なし	経鼻	鼻出血	鼻腔	軽症（処置なし）	帰宅（検査施設対応）

偶発症について

- ・2件の偶発症は、いずれも経鼻挿入時に鼻出血を認めた軽症の事例であり、実施機関で処置後に帰宅となっている。

3 胃がん検診（胃内視鏡検査）

（４）生検実施率

＜生検実施率の目標＞ ～対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル2017年より～【抜粋】

導入時は、胃内視鏡検診の生検実施率は15%以下に留めるべきである。さらに、精度管理体制を整備することにより生検実施率を10%以下にすることを目標とする。

図表 9

		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
要精密 検査者数	受診者数	438	673	1,043	1,348	1,762
	生検	28	58	77	94	93
	ダブルチェック要再検	11	6	0	1	6
	（合計）	39	64	77	95	99
生検実施率		6.4%	8.6%	7.4%	7.0%	5.3%

生検実施率について

- ・令和6年度の生検率は5.3%であり、上記マニュアルに示されている目標値を満たしている。

4 胃がんリスク検診（胃の健康度検査）

（１）年次推移（R7.7月末時点）

図表10

		R2	R3	R4	R5	R6
受診者数		1,365	1,073	181	130	112
検査 結果	A群（人）	1,109	872	154	105	88
	B群（人）	206	145	14	17	17
	C群（人）	50	56	13	8	7
要精密検査者数		256	201	27	25	24
要精検率		18.8%	18.7%	14.9%	19.2%	21.4%
精検受診者数		223	171	27	25	18
精検受診率		87.1%	85.1%	100.0%	100.0%	75.0%
がん発見数		0	1	0	0	0
ピロリ菌除菌者数		156	122	18	18	9

胃がんリスク検診について

- ・精密検査の結果、胃がんの発見はなかったが、ピロリ菌を除菌した方は9名いた。

4 胃がんリスク検診（胃の健康度検査）

（2）胃がんリスク検診の終了時期について

- ・令和6年度第1回胃がん検診協議会において、胃がんリスク検診事業については、令和7年度から市民に周知したうえで、令和8年度末をもって事業終了することを検討するよう、方針が示された。
- ・一方で、関西広域連合からは、ピロリ菌検査とその除菌による胃がん発症予防効果について、「がん検診実施のための指針」等への位置付けに向けた検証を進めるよう、国に対して提案書が提出された。
- ・また、近畿市長会からは、胃がん検診におけるピロリ菌検査の制度化について、国に対する要望が出されている。
- ・当協議会において事業の終了も含めてご議論いただいたところではあるが、上記を踏まえ、当面は国や県の動向を注視する。

5 実施体制に係る経過と方針

図表11

検診		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7				
胃 部 エ ク ス 線 検 査 (集 団)	対象年齢	40歳以上											50歳以上隔年（年度年齢偶数時）						
	実績または 見込み	79日	80日	70日	70日	73日	74日	60日	57日	33日	49日	53日	35日	22日	13日				
		108会場	110会場	79会場	89会場	92会場	86会場	72会場	70会場	41会場	57会場	61会場	43会場	33会場	21会場				
		滋賀県健康づくり財団										医療法人 緑生会	医療法人 緑生会	医療法人 緑生会	医療法人 緑生会	医療法人 緑生会			
	特筆	2,856人	1,895人	1,644人	1,828人	2,491人	2,646人	1,569人	1,805人	1,069人	1,308人	1,336人	770人	367人	712人 (見込み)				
									セット検診（1 日）	新型コロナの 影響により、 開催日数を削 減		・土曜日開催の 設定を開始 ・セット検診 （1日）	・移行期間とし て、前年度XP 受診者及び奇数 年齢者も受診可 能 ・セット検診 （1日）	・対象者を、 50歳以上の偶 数年齢にする ・セット検診 （1日）	・特定健診と同 日に胃がん検診 を実施（4回） ・セット検診 （未定）				
胃 内 視 鏡 検 査 (個 別)	対象年齢						5 0 歳以上隔年（年度年齢偶数時）												
	実績または 見込み						49人	307人	414人	438人	673人	1,043人	1,348人	1,762人	1,690人 (見込み)				
	特筆						H30年2月 開始	対象外者（治 療中・経過観 察中）に、ピ ロリ除菌中・ 除菌後も含む ことを明記		「ピロリ除菌 者」を対象に する	「胃部分切除 後経過観察終 了者」を対象 にする		「抗血栓薬服用 者」を対象にす る	十二指腸病変は 生検をしない					
胃 が ん リ ス ク 検 診	対象年齢	41.46.51.56.61歳（1巡目）					41.46.51.56.61歳（2巡目）					40～60歳（未受診者）							
	実績または 見込み	2,902人	3,168人	3,580人	3,548人	2,452人	1,222人	1,584人	1,353人	1,365人	1,386人	181人	130人	112人	150人 (見込み)				
	事業内容	41歳全員と、46、51、56、61歳のリスク検診未受診者に受診券を送付										受診希望者の申請にて、受診券の発行する							
精度管理		H24～大津市消化器がん検診協議会					胃内視鏡検 査準備専門 部会	H30～大津市胃がん検診協議会											
受診勧奨 (参考)												受診勧奨ハガキ（6月発送）に胃がん検診及び胃がんリ スク検診の案内を掲載 45.50.54.60 歳対象					50.54.60.64 歳対象	50.54.60.64. 68歳対象	50.52.54.56. 58.60.64.68 歳対象